

平成29年度第1回新宿区東京2020大会区民協議会東京2020大会普及啓発部会及び  
平成29年度第1回新宿区東京2020大会区民協議会ボランティア部会  
合同部会 会議要旨

<開催日時>

平成29年9月11日（月）午後2時から午後4時20分まで

<場所>

新宿区役所本庁舎5階 大会議室

<出席者>

新宿区東京2020大会区民協議会委員（18名）

鈴木章生、渡邊哲意、山田和男、田中稔、武山昭英、馬場章夫、久保田悠介、島田治、  
佐藤陽一、吉田淳子、今井康之、金谷ゆか、海東和貴、早川美奈子、太田正一、的場  
美規子、李承珉、山本芳裕

事務局（2名）

加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長（地域振興部長）、  
浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長

<開会>

【鈴木部会長】

ただいまから、第1回新宿区東京2020大会区民協議会合同部会を開催させていただきます。  
本日の進行司会役を務めます部会長の鈴木です。よろしくお願いいたします。  
それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。

まずは、次第1の部会についてです。先日の第1回目の協議会で東京2020大会普及啓発部会と  
ボランティア部会の設置について決定いたしました。部会の編成については協議会設置要綱第  
7条第2項によって各部会の構成員を座長が指名するということになっています。各委員におか  
れましては、所属部会の希望を事務局にご提出していただいていると思います。各委員の意向  
に基づき座長のほうで資料1「新宿区東京2020大会区民協議会 部会名簿」のとおり決定いたし  
ました。皆様のご意向を踏まえた構成となっているかと思っておりますので、この編成で部会を進め  
ていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、部会の役割について、今一度全体の認識を共有すべきと思っておりますので、部会、そ  
して協議会の役割などについて、事務局から説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

では、ご説明をさせていただきます。資料2「新宿区東京2020大会区民協議会及び各部会に  
おける検討内容について」をご覧ください。

前回の協議会の際に、全体会の際にこの協議会はどういったことを審議していくのか少し  
分かりづらいというご指摘もございましたので、改めてご説明させていただきます。

まず、東京2020大会に向けた課題を記載していますが、こちらは東京2020大会、そして大会後を見据え、こういったことが課題になっているのではないかとということを事務局のほうでまとめたものです。

2020年度ですが、大会後にこういった状況になっていると望ましいのではないかとということを四つ書かせていただいているところです。

一つは、多くの区民の方にとって、東京2020大会に何らかの形で関わったという経験が思い出として残るようにするという事です。二つ目として、子どもたちにとって、東京2020大会に関連して体験したことが、生涯の記憶として残るようにするという事です。三つ目には、東京2020大会を契機とした取組みや団体間の連携などにより、地域や団体の活動をいっそう活性化するという事です。最後に、引き続きボランティア活動の機会を創出し、ボランティア意識の定着を図っていくということです。

これに向けて2020年度までの間にこういったことが必要かということ、いくつか挙げています。大きいところでは、東京2020大会を好機と捉えて、各分野の取組みをさらに拡充・充実させていくということです。このことについて、東京2020大会普及啓発及びボランティア、それぞれの観点からまとめています。

まず、東京2020大会普及啓発に関して推進していく事項としては、前回の協議会でも話題になりましたが、東京2020参画プログラムのツールを活用することにより、各団体で実施する各種イベント等を東京2020大会の関連事業として展開するという事を挙げています。各団体が実施する様々な分野の事業があるかと思いますが、各分野の大会関連事業を効果的にPRしていくことによって区民の方々の気運の醸成をしていくことを実現するために具体的にどういふことをしていったらいいか。各地域、団体の皆様にどういふことができるか。また、区のほうではどういふことをしていくべきかを東京2020大会普及啓発部会の中でご議論していただきたいと考えています。

ボランティア活動に関して推進していく事項としては、例えば、東京2020大会関連事業をはじめとして、ボランティア活動への参加の機会を創出していくこと。それから、ボランティア活動のメリットをPRすることなどによって、区民の皆様の参加意欲を醸成していくこと。こういったことを実現するためにはどういふことをしていったらいいかということ、具体的に議論していただき、ボランティア部会の皆様にご意見を頂戴できればと考えています。

参考として、区で実施する気運醸成事業や大会に関連する動きのタイムスケジュールを示しています。

説明は以上です。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございました。

区としての様々な考え方を一応整理していただきまして、将来に向けて四つの柱と申しますか、区民の思い出になるような経験をどうやって残していくか、それから子どもたちに体験、記憶をどうさせていくか。地域の活性化にどうつなげていくか。ボランティアの意識を定着さ

せ、それを維持していく、継続させていくにはどうしたらいいか。将来に向けてのいろいろな方向性をまとめていただきました。

何かご質問はありますか。よろしいでしょうか。

それでは、次第2、新宿区第一次実行計画（素案）における東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業についてです。

開催通知にもございましたが、新宿区では来年度から3年間の事業計画を策定していきまして、その計画の中に東京2020オリンピック・パラリンピックに関連した事業もいくつかあるということです。今回はそれを題材にして少しご議論いただければということですが、具体的には、区の事業をより効果的に行っていくためにはどんな方法が考えられるのか。それから、区の事業に関連して、各団体においてどんな取組みが行われているか。今後どういった関わりを持っていきたいか。そういった観点から全体で意見交換をしていただければと思います。

まず、新宿区第一次実行計画（素案）ですが、東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業について、事務局から説明をお願いします。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

それでは、資料3「新宿区第一次実行計画(素案)における東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業について」に沿って説明させていただきます。

こちらは、新宿区第一次実行計画（素案）から、東京2020オリンピック・パラリンピックに関連する事業を抜粋したものです。実行計画の素案は、各所にて配布しており、ご覧いただけます。

今回は素案の中の東京2020オリンピック・パラリンピックに関連する事業についてご説明させていただきます。

まず、新宿区の施策体系についてお話しします。新宿全体の行政計画としては、最上位に新宿区基本構想というものがございます。こちらは平成19年度に策定しまして、概ね20年後を見据えたものとして策定されたものです。それに基づき、新宿区総合計画を10年間の計画期間で策定しています。こちらは今年度末で計画期間が終了しますので、平成30年度からの新たな総合計画を策定しているところです。

総合計画の内容を更に具体的な事業として計画的に実施していくための行財政計画として策定しているのが実行計画です。今回、策定している第一次実行計画は、平成30年度から平成32年度までの3か年を計画期間としています。

続いて、具体的な施策の内容について説明します。

まず、東京2020大会普及啓発です。事業名で言いますと、東京2020大会オリンピック・パラリンピック開催に向けた気運醸成という計画事業がございます。年度別実施計画ですが、平成30年度から32年度までの間、東京2020大会区民協議会の運営をしていくほか、気運醸成のイベントとして平成30年度に777日前と500日前の記念イベント、平成31年度以降はイベントのほかパブリックビューイング、平成32年度については聖火リレー関連イベントの実施を計画しています。

続いて、スポーツの分野に関しては、スポーツコミュニティの推進、総合運動場の整備という二つの事業がございます。

スポーツコミュニティの推進ですが、区のスポーツ環境を支える主体との連携強化を図るとともに、子どもから高齢者まで、また障害のあるなしに関わらず、ライフステージ等に応じた多様なスポーツに親しめる機会を創出することを目的とした事業で、子ども・成人向けのスポーツ体験や障害者スポーツ体験イベント、ボッチャ等の障害者スポーツの体験、指導者養成講座やトップアスリートの練習見学会を実施していくことを予定しています。

続いて、総合運動場の整備についてです。こちらは、現在の戸山公園箱根山地区にある多目的運動広場をより快適に他種目・多目的に使用できる総合的な多目的運動場として整備に向けた検討を行っていくという事業です。

続いて、教育の分野ですが、前回の全体会でも少しご紹介させていただきましたが、一つ目は英語キャンプの実施という事業がございます。こちらは、英語だけの環境に身を置く2泊3日の英語キャンプということで、小学校5・6年生と中学校1・2年生の2種類で実施するもので、新宿のまちの紹介や外国人観光客に対する道案内の仕方など、実際の場面を想定しながら学習するという内容です。

また、伝統文化理解教育の推進という事業もがございます。こちらは、小学校では伝統文化の体験教室、中学校では新宿ものづくりマイスターの体験講座と和楽器体験を実施するというものです。新宿ものづくりマイスターは、区内の事業所でものづくり産業の同一業種に10年以上携わって優れた技術、技能を持ち、後進の指導を行い規範になる方を認定しているものです。

次に、障害者理解教育の推進は、区立学校全40校で障害者スポーツの体験事業を実施するものです。また、大会終了後においても障害者への理解を深める教育を実施できるように、障害者理解教育推進教材を作成して活用しています。

スポーツギネス新宿の推進については、児童・生徒が運動の楽しさに触れて自ら運動に親しむことができるように、小学校及び中学校で実施した記録を集計し、ランキングの作成を行います。小学校についてはキャッチボール、バスケットボールなどの中から種目を選んで実施しており、一方、中学校についてはダブルダッチを実施しています。

文化の分野に関しては、まず、新宿フィールドミュージアムの充実でございます。こちらは、音楽・美術・演劇・伝統芸能・パフォーマンス、まち歩き、歴史探訪など、幅広いジャンルのイベントなどからなる事業です。前回、委員からご案内いただきましたが、平成31年度より7月から11月までと、開催期間の拡大を予定しています。また、ホームページの多言語化にも取り組む予定です。

続いて、和を伝えるプログラムです。こちらは東京2020大会とその後を見据えて、外国人観光客を含む来街者を対象として、華道、茶道などの和の文化を体験できるプログラムを実施するものです。平成30年度から平成32年度まで6回又は7回ずつ開催することを計画しています。

続きまして、観光の分野についてです。

まず、魅力ある観光情報の発信です。こちらは、国際観光都市としての魅力とブランド力の

向上を図るため、一般社団法人新宿観光協会の情報媒体を活用して観光情報を発信するという事業です。具体的には、ホームページやSNS、観光情報誌「新宿plus」といった媒体を活用して発信していくものです。

そのほか、観光情報発信拠点との連携や海外へのプロモーション等を行っていきます。さらに、区を訪れる外国人旅行者の動線の分析を平成30年度に実施し、それを踏まえた情報発信につなげていくということも計画しています。

続きまして、新宿観光案内所のサービスの拡充です。平成28年12月に新宿駅に開設した観光案内所ですが、新宿区内の回遊性を高めて何度も訪れたいくなるように、区内の各エリアの魅力を提供していきます。例えば、ARを活用した案内板の整備などを行っていく計画です。

続いて、新宿フリーWi-Fiの整備です。現在、公衆アクセスポイントを新宿駅、新大久保駅、高田馬場周辺に設置していますが、今後も新設を予定しているというものです。

それから、多彩な観光資源を活かした区内回遊の促進、こちらは新規事業です。エリア別の新宿の観光マップの作成を通じて、魅力あるスポット等新しい観光資源の発掘やその情報発信を進めていく事業です。あわせて、文化財説明板の英文併記も行っていく計画です。

観光案内標識の整備促進については、東京2020大会に向けて国内外から来街者が多く訪れる新宿駅周辺やその他主要駅周辺の歩道上へ観光案内標識の整備を進める事業です。

次に、産業の分野です。まず、新規事業ですが、しんじゅく逸品の普及がごございます。年度別実施計画としては、しんじゅく逸品マルシェの開催や販売力強化セミナーの開催を毎年実施していきます。そのほか、しんじゅく逸品への登録や紹介冊子の発行を進めていきます。

最後に、環境の分野についてです。こちらは、資源回収の推進という事業がごございます。この計画事業自体は、通常古紙回収、びん・缶の回収、ペットボトル回収、資源回収の推進を行っていくという事業ですが、この事業の一部として、小型電子機器等の回収を行っています。組織委員会が実施する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に活用するための電子機器を回収しています。なお、必要な原材料の量は相当な量となりますが、今年2月から7月までの間に新宿区が回収した分としては、金1.3キロ、銀4.1キロ、銅462.8キロを資源化しているという実績がごございます。

資料3の説明については以上です。

#### 【鈴木部会長】

ありがとうございました。

ただ今、新宿区の施策に対するご説明として、特にオリンピック・パラリンピックに関連する事業のご紹介、ご説明がございました。

これから、素案の内容の検討や分析をしていただきたいと思います。事業一つひとつを扱うのは少し細かくなりすぎる感じがしますので、東京2020大会の普及啓発やスポーツなど、大きい柱ごとに議論を進めていきたいと思っています。

まずは、大会の普及啓発に関するところからです。

これは、大会の気運醸成のイベントということで、どういうことを行えばオリンピック・パ

ラリンピックに向けて区民の気運が醸成されていくかということです。子どもを絡めたイベントや、アスリートと一緒に何かを行うなど、いろいろと考えられているようです。何かご意見等ございますか。

**【委員】**

イベントの内容よりも、イベントをどのように告知していくかがすごく重要ではないかと思っています。新宿区内で、オリンピック・パラリンピックだけでなく、様々な良いイベントを行っています。情報発信の仕方がもう少し工夫できないかと思います。普段から自分で情報を集めに行くような方にとっては、区報を見れば情報がつかめますが、全くそうではない関心がない人にも行き渡るようなイベントの告知の仕方を考えなければいけないのではないかと思います。

文化・芸術といったイベントをフェイスブックにもあげていますが、「いいね」の数が1桁だったりするという残念な結果ですので、そういった発信の仕方を考えていくほうが良いと思っています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

世の中いろいろな情報があふれていまして、逆に必要な情報が埋もれてしまうこともあるでしょう。気がつかないということもあると思います。

これは全ての事業に関わってくるのだと思います。いろいろな事業をどうやって知らせていくかということです。当然、それは技術的な問題だけでなく、経費的な問題とも関わってくると思います。その辺について、渡邊部会長にご意見をいただければと思います。

**【渡邊部会長】**

今年度は1000日前イベントがありますが、それ以外にも恐らくイベントの数が増えてきたりするのではないかと思います。今後、具体的にどのぐらいのイベントを企画して、どのぐらいの規模で行うのでしょうか。それによって、先ほど意見のあったような告知の仕方、そういったところの事業費はどのように考えているのでしょうか。事業費がもっと掛かるのではないかと思います。いかがでしょうか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

平成30年度における気運醸成イベントは、2回を予定しています。平成31年度は、イベントを1回とパブリックビューイング、平成32年度は100日前のイベントと聖火リレー関連イベント、大会開催期間中のパブリックビューイングを予定しています。

**【渡邊部会長】**

事業経費については、少し心配しているところがあります。イベント規模をどのぐらいにするかによって事業経費に大きく差が出てくると思いますので、その辺りは大丈夫なのか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

今申し上げた事業は、現在計上している事業費の中で実施しますが、このほかに実施すべき

事業があれば、追加を検討していきますので、ご意見をお願いします。

**【委員】**

イベントの申込みの仕方ですが、往復はがきで申し込むことが多いです。その場合、往復はがきを買いに行かなければというロスが生まれるので、それならば面倒だから申し込まないという人も割と多く見受けられます。

今の時代、スマホを使っている方が多いです。QRコードで読み込むことができたならその場で申し込めるので、もっと円滑にいくと思います。ですので、事業経費の問題があるかもしれませんが、ご検討いただければと思っています。

**【鈴木部会長】**

大会の普及啓発に関する気運醸成のイベントは、今事務局から説明があったように、ワールドカップのパブリックビューイングや聖火リレーに関するイベントなど、全体としてのイベントで気運醸成をしようというものです。委員から先ほど意見があった様々なイベントについての告知の仕方は、ほかのイベントにも共通することで、この普及啓発に関してはあくまでもワールドカップや聖火リレーに関する事業を通して気運醸成を高めていきたいというものです。それ以外のイベントのやり方がもしあればご意見をいただきたいということだと思っています。

確認ですが、それぞれの事業の告知に要する費用に関しては、各事業の事業費に含まれていると考えていいですか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

事業の周知の経費についても、事業経費の中に入っています。今年度実施する東京オリンピック・パラリンピック大会1000日前のイベントですが、各小・中・特別支援学校を通じて児童・生徒に1人1枚ずつチラシが行き渡るように配り、周知を図っていきます。

QRコードを活用した申込み方法については、今後検討させていただければと思います。

**【鈴木部会長】**

どうやったら参加できるかというところは、区民にとって大事なことだと思っています。今回は事業全体を検討するという段階だと思っていますので、具体的に事業が固まってきた段階でどうやって区民に告知するかというのはそれぞれまた考えていきたいということでもよろしいでしょうか。

そのほかにご意見はありますか。

では、次のスポーツのほうに進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

スポーツに関しましては、本日欠席の委員から事前にご意見をいただいているようですので、そのことについて事務局のほうから説明をお願いします。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

本日ご欠席の委員から事前にご意見をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

まず、周知方法について、そもそも興味・関心がないとなかなか情報が目にとまるのがないというところがあるので、例えば、いつでもどこでもオリンピック・パラリンピックのことが目に入るように、施設に大きくてインパクトのある掲示をしたらどうかというご意見です。

それから、掲出物の内容について、開催日程や競技種目を記載して具体的に分かりやすく表示したほうが、大会に向けたムードが高まるのではないかと。スポーツ施設に入ったところに、すぐに目に飛び込んでくるような、印象に残るような表示をしたらどうか。また、区の施設を練習会場として提供したらどうか。そこで練習する選手団と間近に交流を持てるような機会を創出したらどうか、というご意見をいただいています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

周知方法というご意見がまた一つありました。情報をどうやって区民に分かりやすく伝えていくか。それから、大会の練習会場としての施設の活用や、子どもやアスリートたちとの交流といったことについてもご意見がありました。

ほかにご意見がございましたらどうぞ。

**【委員】**

総合運動場の整備が掲げられているので、それについて何点かお伺いしたいことと、ご提案をさせていただきたいと思えます。

まず、戸山公園の箱根山地区多目的運動場広場ですが、誰でも利用できるような誰でもトイレがまだ設置されていません。せっかく整備を掲げているので、そういったことについても整備の中の計画に入れていただければと思っています。

また、こちらのグラウンドですが、とても自然豊かなグラウンドで、土も自然のまま活用していますが、大雪や大雨になると、グラウンドがぬかるんでしまうというような状況がございます。サッカーの大会などをしていても、ベビーカーを押している親御さんたちが困るほどグラウンドがひどい状況になってしまうこともございますので、そういったことも含めて整備の検討をしていただければと願っています。

それから、23区で一番高い山である箱根山のイメージをどんどん押し出していくために、オリンピックの種目に新たに追加されたスポーツクライミングを活用してほしいと思っています。最近、スポーツクライミングは若い方にとっても流行っていきまして、新宿区内にもジムができています。箱根山にこういうスポーツクライミングのジムをつくって、総合運動場の整備の中で、新宿区の目玉としてPRしていくようなことをしていただければと思っています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございました。

今の委員のご質問、ご提案について何か回答することはございますか。

**【生涯学習スポーツ課長】**

まず、トイレについてですが、今、都立公園の一部を運動場として整備することになっていますので、トイレを都立公園の一部として都が整備するのか、あるいは運動場の一部として区が整備するのかを含めて、まだ検討が進んでいないというのが実態です。もちろんどちらが整備するにせよ、障害のある方が自由に利用できるトイレという視点での整備は大変必要なものだと思っています。

それから、グラウンドについてですが、高低差がある敷地の中で、どのようなものにするのか。例えば、人工芝にするのか、あるいは土にするのか。このグラウンドは、様々な団体の方が様々な競技で使っていただいています。芝と言っても、サッカーをする方が好む芝と、野球をする方が好む芝があるので、広く多目的に使用できるように、どのような整備が一番使い勝手がいいのか、ご利用団体の方からご意見を十分にいただきながら整備を進めていきたいと考えています。

それから、箱根山についてですが、箱根山は非常に眺望がよく、スポーツの担当としても気運の高いところだと思っているところです。ただ、落下事故の恐れ等、安全面を考えて、そういったことができるのか、できないのかを考えていきたいと思います。

都立戸山公園は非常に広いゾーンであり、全体の大きな計画の中の一部公園の利用として運動場が位置づけられているということもありますので、東京都の動向を聞き取りながら、今のご意見なども魅力的な提案として受け止めさせていただきたいと思います。今後、何か動きがございましたら、この場でもご報告を申し上げたいと思います。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございました。

スポーツ関係では、何かご意見、ご提案等ございませんか。

**【委員】**

実際にオリンピック・パラリンピックを行う上で、競技団体の皆さんのご意見というのはとても大きな意味を持ってきます。現在、新宿区の体育協会に加盟されている団体、あるいはオリンピック種目にある新宿区の団体のリストがあれば、ぜひ少し資料としていただきたいと思っています。

各競技団体の皆様がオリンピックに向けてご苦労をされていることがたくさんあります。少しでも自分たちの競技団体をアピールしたいと思っている方々は、数多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

それぞれの連盟が新宿区の中でメインとしている催し、その上にある東京都大会、あるいはジュニアの大会といったものをうまく活用していくと、各競技団体の方々のご協力をいただきながらオリンピックに向けてのムーブメント加速させていくことができると思います。

ボランティアの方々も、そういった催しに連動してくると思いますので、こちらについても資料等があれば有難いです。同様に、直接各競技団体以外に町会・自治会、商店会の方々が、やはり何かをやりたいというお話が出てきたときのきっかけにもなっていくかと思っています。

2002年の日韓ワールドカップサッカーの際には、やはり何をしたいか分からないということが最初の頃はありましたが、一つの競技団体の試みが一気に波及していきました。そのため、こういう情報があれば共有したいと思っています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

今の委員のご意見、各競技団体の組織的なネットワークを利用して情報発信等の動きをしていくことと思いますが、これに関しては何かご意見はありますでしょうか。

**【生涯学習スポーツ課長】**

体育協会の運営支援を公益財団法人新宿未来創造財団で行っています。ご意見いただいたとおり、各競技団体の力を借りて、働き掛けていくことは必要なことだと思いますので、体育協会に加盟している39団体の中でオリンピック種目となっている競技はどのくらいあるのかということ、どういった活動を主に行っているのかということについては、この協議会の場において情報提供したいと思います。

**【委員】**

ありがとうございます。

オリンピックの成功には三つの大きな要素があるというお話を、スポーツ庁初代長官である鈴木大地氏と、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事である橋本聖子氏からお聞きする機会がありました。一つはスムーズな大会運営です。この点は、各競技団体の責任の中で行っていきます。それから、日本選手団の好成績です。こちらは、初日からメダルラッシュになれば、早い段階で盛り上がっていきます。それから、やはりオリンピックを開催するホームタウンの存在です。新国立競技場がある新宿区でいかに盛り上がって、いろいろなホスピタリティが整った状態をつくれるかという三つの要素についてのお話をさせていただきました。そのため、競技団体に関するこういった質問をさせていただきました。

**【鈴木部会長】**

非常に貴重なご意見をいただきました。体育関係の競技団体が核になって区民にいろいろな情報が伝わっていくような、そういうネットワークはとても重要だと思いますが、恐らく競技団体以外にもいろいろな団体があると思います。そういったものの活用というのは今後期待されていくところではないかと思っています。

ほかにいかがでしょうか。

**【委員】**

トップアスリートの練習見学会とありますが、今までこういうイベント等があるのはやはり新宿コズミックセンター、あるいは新宿スポーツセンターの2か所です。ほかに体育館がないから仕方がないのかもしれませんが、今の2施設は場所的に固まっていますので、離れた地域に住む方が参加しづらいというのはいつも思います。

ですから、新宿区の隅々に体育館をつくるのは無理な話だと思いますが、イベントをできるような場所をもう少し広げていただきたいとは思っています。民間施設を新宿区が借りて、そこでイベントを行うようなことをしていただければ、もっと参加しやすくなるのではないのでしょうか。

**【鈴木部会長】**

これもまた貴重なご意見かと思っています。どうしても区に関連の施設に集中してしまうということがありますが、民間の体育館、大学の施設、そういったところの活用を検討していただい

て、イベントの開催会場を少し広く、区全体を通して考えてほしいというご意見です。検討していただくということでもよろしいでしょうか。

それでは、教育のほうに入りたいと思います。教育関係は事業が四つほどあります。ご意見をいただければと思います。

#### 【委員】

英語キャンプの実施に関して、質問と提案をさせていただきたいと思います。

2,000万円ほどの予算で英語キャンプを実施するというのですが、参加する小学生あるいは中学生は、それぞれ100人から150人前後かと思っています。新宿区には恐らく1万人以上の小学生、中学生がいることと思いますが、その中で英語キャンプに参加できる人は限りがありますので、もう少し効率の良い英語の普及ができるイベントが欲しいと思いました。

もちろん、英語キャンプはとても意義あることですし、子どもたちが英語に対する感覚を養う大事な機会だと思っています。しかし、参加者が200人くらいだと、ものすごく足りない気がします。もう少し効率的に予算を使って、区内の児童・生徒の英語力を養う方法を考えるべきではないかと思っています。

一つ提案ですが、英語スピーチ大会を各校で開き、その優勝者どうしで更に大会を行うということになれば、かなりの英語の勉強になると思います。また、オリンピック・パラリンピックの際には、英語を勉強した方々がボランティアとして活躍できると思います。英語キャンプを効率の良い方法で改善するというのはどうかというご提案です。

#### 【鈴木部会長】

ありがとうございます。

キャンプ以外の何か催しというので、英語によるスピーチ大会を開催してみてもどうかというご提案がございました。

#### 【教育支援課長】

貴重なご意見ありがとうございます。

英語キャンプについては、今年度から定員を拡充しまして、平成30年度から平成32年度まで継続して行う計画ですが、中学生が40数名、小学生が100名弱参加していただきますので、全体で約140名程度の参加を計画しているものです。

全体の小・中学生の数から見ると、参加できる児童・生徒の数が少ないというところはありませんが、昨年度から実施しており、参加した子どもたちの様子を各校に調査してみましたが、それぞれ非常に英語に対する関心が高まっています。学習に対して非常に積極的になった、あるいは授業の中でもこういった子どもたちの姿を見て、周りの子どもたちも英語に積極的に取り組むようになったということ、それぞれの学校から報告されています。そういった意味でも効果があるものと考えています。

一方で、冒頭申し上げましたとおり参加人数に限られてくるということがございますので、それ以外の取組みについても今後の検討課題の一つであると考えています。

具体的には、それぞれの学校でNPO法人や地域の団体等と協力して、2泊3日のような宿泊

ではありませんが、ネイティブスピーカーを招いて英語体験を1日行っている学校もごさいます。そういったところを支援していく、あるいは情報を共有していくということで、より多くの子どもに体験の機会を与えられればと思っています。

それから、スピーチコンテストのお話も大変良いご提案であると思います。今、区立の中学校では英語学芸発表会を行っていきまして、そこで子どもたちがそれぞれ学校の代表として練習して、発表をする取組みを行っていきいます。実は、今年度の8月に実施したところなんです。こういった取組みを通して、英語キャンプと同様、子どもたちが英語に対して非常に積極的な姿勢を育てることができたという報告を聞いていますので、今後こういったことを拡大できないか、機会をとらえて考えていきたいと思っています。

英語キャンプについては、当面、現在の取組みを続けていき、意欲の高い子どもたちに様々な機会を提供する、こういった機会を通して意欲を高めていくということに取り組んでいきたいと考えていますが、先ほど申しあげましたようなほかの取組みを通じてより多くの子どもたちに機会を提供したいと思っています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

このキャンプを通じて、英語に親しんでもらい、そこからオリンピック・パラリンピックを念頭に置いて、ボランティアではなくとも、外国人観光客と少し会話ができるぐらいのきっかけづくりにはなっていくのではないかと思います。

ほかにごさいますか。

**【委員】**

平成27年度の東京都の児童運動習慣等調査の報告書の市区町村別を見ていますが、教育に関して、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、中学校卒業後、自主的に運動したいと回答した割合」を現状の63%から平成32年度末には65%に持っていきたいということですが、新宿区の調査結果を見ますと、運動部に所属している率が、例えば小学校だと男子が62.7%に対して、女子が36.9%という結果になっています。確かに、サッカーや野球など、男子は運動を習慣的に行う場所がありますが、女子に関してはそういうことがないと思います。こういった数値を底上げしたいときには、うまくいっているところを更に引っ張り上げるよりは、うまくいっていないところをてこ入れしたほうが、全体的にレバレッジがかかるということもあります。

そういったことで、スポーツ系のイベントに関しては、男子は興味があれば自主的に来ますので、どちらかという女子にアピールできるような企画、発信方法を考えていけば、目標の達成に向けて実現が早まるのではないかと思います。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございました。

女子に向けて、魅力ある情報発信やプログラムを考えたらどうかというご意見です。何かごさいますでしょうか。

**【教育指導課長】**

貴重なご意見ありがとうございました。

女子児童・生徒の体力の向上も課題かと思っています。小学校のスポーツギネスについては、いくつか種目があります。片足けんけん20メートルや、バスケットボールのシュート、バレーボールの円陣パスなどがございます。それらのタイム等を集計して、その結果を区全体で集約して上位者を表彰するような制度を新宿区として進めているところです。

この取組みは複数年にわたって取り組んでいるところで、確実に新宿区の小学生の体力の向上については効果が出ていると認識しているところです。

ただ、今、ご意見をいただきましたように、スポーツギネス新宿の取組みだけではなくて、ほかのスポーツへの関心を促したり、スポーツイベントへの参加を促したりという周知については一層工夫していく必要があると感じていますので、様々な開催するイベントに向けて学校を通して、その辺りへの参画を広めていきたいと考えています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございました。

ギネスに関しては、子どもたちがどんどん取り組めるような魅力あるプログラムを考えていただいて、頑張ってもらえるといいと思いました。

ほかに何かありますか。

**【委員】**

障害者理解教育の推進について、新宿未来創造財団での取組みをご案内させていただきたいと思います。

当財団では、区の受託事業として、コミュニティスポーツ大会として、各地区大会の運営を地域の皆様方のご協力を得て進めています。誰もが気軽にできる運動ということで、ユニカール、輪投げ、ビーチバレーを種目にしていますが、10地区ともボッチャを採用していただきたいということを要請しているところで、皆様方に体験していただく機会を持ちたいと思っています。

また、受託事業の一つで、放課後子ども広場を受託しています。財団で受け持っている学校の中では、ボッチャの器具を持たせて、毎日というわけではありませんが、放課後、ボッチャに触れてもらうという機会をつくっています。

さらに、新宿コズミックセンター入口で、東京都が作成した、パラリンピックスポーツの映像を上映しています。こちらは、パラスポーツに少しでも皆様方に触れてもらう、知っていただくということで行っています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

伝統文化理解教育の推進に関しては、今のところご意見がないですが、何かございませんか。

**【委員】**

平成28年度から小学校では、和妻や日舞、落語、狂言などを体験しています。ほかには、例えば芸能花伝舎では、2005年にその芸術体験広場を開催していたり、地域と密着していろいろ

伝統芸術を広めたりという活動をしているようです。

それから、文化庁ではもともと伝統文化親子教室という授業があって、それは全国でも行っていますが、例えば四谷地域センターでは、新宿区に日本舞踊子ども教育があり、昨年娘も参加しましたが、幼児でもきちんと所作などを教えていただける良い体験がありまして、そのほか数多く新宿区では伝統文化に関する催しは多くあります。この事業が単なる個人的な理解に留まってしまっただけでは非常にもったいないので、これをきっかけに海外の方たちにも日本の文化の素晴らしさを知ってもらえるような機会、発表を発信していけるような場があればいいと思っています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

伝統文化ということで和楽器演奏などありますが、これは、例えば新宿ならではの何かを想定しているのでしょうか。

**【教育支援課長】**

昨年度からこの伝統文化の理解教育のために、全小学校で日本舞踊、和妻、狂言、落語のいずれか一つを体験して、この4年間に全校に回していくということで実施しています。子どもたちはこういった体験を今までしたことがなくて、非常に関心が高まったという感想が多く聞かれますが、これは個人的な感想で終わらせることがないようにしていくことが肝要であると思っています。

先ほどご紹介いただいたように、新宿区だけではなく、東京都、あるいは芸能花伝舎等様々な取組みがございますので、こういったところの情報発信の工夫をしながら海外の方々にもこういった日本伝統文化の良さを伝えられるような教育を進めていければと思っています。

それから、和楽器の体験については、特に中学校では伝統的な太鼓などを扱っているわけではないですが、地域に様々な伝統的な和楽器を継承されている方がいらっしゃいますので、その方々のお力をお借りしながら地域と一体となってこういった教育を進めていければと思っています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございました。

**【委員】**

英語キャンプの話に戻りますが、「英語を用いたコミュニケーションの楽しさを実感した」と回答した割合を100%にすると掲げています。この目標設定ですと、民間企業の英語教室が行っている英語キャンプとあまり変わらない印象を受けます。あくまで、これは2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた新宿区の事業であって、計画事業概要に則った目標設定にしなければいけないのではかと思っています。

新宿区についての理解を深めることや外国について理解することで国際感覚を養えることを重視して、それも目標設定に掲げていただければ、単に英語でのコミュニケーションの楽しさを実感すればいいという目標設定だけでは少し寂しいと思います。

**【鈴木部会長】**

大変貴重な意見だと思いますが、いかがでしょうか。

**【教育支援課長】**

貴重なご意見、ありがとうございます。

こういった目標とした背景といたしましては、そもそものこの事業の目的として、先ほども少し申し上げましたが、英語に積極的に触れる姿勢を育んでいただくということを目標としています。

そういった中で、プログラムの内容としては先ほどご紹介していただいたような新宿区の観光案内について、英語のネイティブの講師と英語でやり取りをしながら、自分たちでその案内のプログラムをつくってお互いに発表し合うなど、それから、日常生活の中でもそういったネイティブとのコミュニケーションを授業以外の場面でもとるということを進めています。

こういったことを総合的、最終的に評価して英語に積極的に取り組む姿勢をどのぐらいできたかということ測る指標として、このような目標を設定していますが、先ほどいただいたようなご意見は非常に重要な観点とっておりますので、そういったことがしっかりと子どもたちが身につけられるように今後も事業を展開していきたいと思っております。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

教育関係ですが、もう少し地域との関係性を考えていくことも必要かと思っております。将来的にはボランティアなどにつながっていくことと思っておりますので、キャンプに行って楽しんで終わりではなくて、それをどう発展させていくかということ少し考えていく必要があると思っております。

それから、障害者理解についても同じだと思いますが、スポーツ体験だけで終わらせないで、それを次にどうつなげていくか、障害者のスポーツ理解を、健常者等含めて一緒に考えていく必要性もあるのではないかということで、またいくつかの取組みもあろうかと思っておりますし、また、更にこれにブラッシュアップして、より具体的な活動、事業の推進もあり得るかと思っておりますので、またご意見があれば総括の中で少しお話をさせていただければと思っております。

続いて、文化にいきたいと思っております。

文化のほうもいくつかございます。ご意見がございましたらお願いします。

前回のご意見の中で、新宿フィールドミュージアムの期間の拡大や、ホームページの多言語化などについての情報提供が委員からございましたが、特に、情報発信についてはとても重要ではないかということで、取組みの一つとしてどんなことが考えられるか。先ほどのSNSの利用など、そういったことも少し含めてご検討していただければと思っております。どうでしょうか。

**【文化観光課長】**

新宿フィールドミュージアムについて、紙媒体で行っていた案内を他言語表示するというところで、情報発信の強化を図っています。現在、ガイドブックは日本語のみの表記になっていますが、英語を始めとして、中国語や韓国語の表記に広げていきたいと考えています。

また、それとともにホームページの整備も行っており、各参加団体がSNSを活用して拡散

していただくという方式をとっていきたいと考えています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございました。

委員から何かご意見、ご提案はございますか。

私のほうから、一つご質問させていただきますが、和を伝えるプログラムについて、華道、茶道の和の文化を体験できるプログラムということですが、これはどこで体験をさせるのでしょうか。

**【文化観光課長】**

こちらは、来年度計画事業化しますが、今年度は経常事業として行っています。会場としては、区内のオープンスペースを活用して実施したいと思っているところですが、オープンスペースについても、茶道、華道、水を使ったり、火を使ったりいろいろありますので、そういったところを今調整している段階です。これからしっかりと集客が図れるような場所を会場にして、皆様に周知していきたいと考えています。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

**【委員】**

和を伝えるプログラムですが、英語キャンプや伝統文化理解教育を行っているので、そこで学んだものを児童・生徒が活かせるような流れをつくってもいいのではないかと思います。

**【鈴木部会長】**

子どもたちがせっかく英語を習ったのだから、何かそこで少しパフォーマンスができるような場を提供してはどうかというコラボレーションの一つのご提案かと思います。

何かご意見がございますか。

**【文化観光課長】**

こちらのほうは、主に外国人訪問客を中心として見据えている事業ですが、やはり華道、茶道、それぞれに日本語対応を行うことは難しいので、今のところ通訳を介して行う予定です。区としても横のつながりでどのように協力体制ができるかということについては、まず今年度実施してみて、その経過を見ながら考えていきたいと思います。

**【教育支援課長】**

英語キャンプの参加者については、オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、英語に対する子どもたちの積極的に学ぼうという姿勢を育むことと、それから同時にオリンピックの際には実際にそういったボランティアとしても活躍できるような素地を養っていくことも目的の一つとしています。

英語キャンプに参加した児童・生徒については、教育委員会からもボランティア活動ができるような機会があれば、そういった情報提供を行って、実際にボランティア活動を行っていただくという取組みを今まで進めています。例えば、昨年度で申し上げますと、中学生の部で43

名ほど英語キャンプの参加者がいましたが、このうちの19名が新宿シティハーフマラソンのボランティアとして活動したという実績がございます。

当日は、外国人の方がほとんどいらっしゃらなくて、英語を使う機会がなかったのですが、参加した子どもたちの感想を聞いてみますと、スポーツボランティアの体験が初めてで大変楽しかったという感想が多く聞かれました。今後も和を伝えるプログラムの中でできるかどうかを検討しなければいけないと思いますが、そういったボランティアとして参加ができるような機会があればまた発信していき、子どもたちが実際のオリンピックの際にボランティアに積極的に参加するような姿勢を育てていければと考えているところです。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

小学生、中高生、大学生、英語の能力のレベルにもよると思いますので、小学生がいきなり茶道の説明が英語でできたら大変だと思いますが、何かコーディネートしていただいて参加する機会が少しでもできると、子どもたちの良い思い出にもなるでしょうし、きっかけになって、更に英語で何か情報発信をしたいという気持ちになっていただければ、子どもたちの成長にもなると思います。ぜひお願いしたいと思います。

ほかにもございますか。

**【委員】**

私の会社では、昨年からの通訳案内士養成講座を始めました。ぜひオリンピック・パラリンピックに新宿区として質の高いガイドを確保できるようにご協力ができたらと思っています。今、新宿区としてどれぐらい通訳案内士というのはいらっしゃるのでしょうか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

申し訳ございませんが、こちらでは把握しておりません。

**【鈴木部会長】**

その点については、情報を集めて整理してまた検討することといたしましょう。恐らく、将来的にはいろいろと大事なことになると思います。

ほかにもございますか。

**【渡邊部会長】**

参加団体を増やすということと、それぞれの参加団体がそれほど力を持っているわけではないので、参加団体にどれほど支援できるのかというところが、新宿フィールドミュージアムの盛り上がりにも影響するのではないかと考えています。新宿フィールドミュージアムについては、認知度が低いという印象を受けています。私の大学でも参加していますが、いろいろ見て回るのにどこでやっているのか分かりにくいという部分があると思います。

**【文化観光課長】**

今ご意見をいただきましたが、現在、期間の拡大等も考えており、期間拡大に合わせてチラシの発行回数を増やすといったことや、チラシ等の設置場所も拡大していきたいと考えています。

それから、ホームページを活用して参加団体に広く呼び掛けて、情報発信の強化をしていきたいと思っていますので、そういったことで平成32年まで事業を拡大していきます。

**【鈴木部会長】**

やはり情報発信というところが少し検討課題になるだろうという感じがします。東京都内を含めて全国いろいろなまちの中でのアートフェスティバルやパフォーマンスをやっているところが多くなっていますので、そういったところの方法を参考にしながら実際に行ってみるのも一つの手かと思います。期待していきたいと思います。

続いて、観光のほうに入りたいと思います。

こちらについてはいかがでしょうか。

**【委員】**

海外旅行の際には、トイレの場所を探したり、無料のトイレが少なかったりします。東京でも、公衆トイレは古くて、あまりきれいではないところが結構多かったです。新宿区では、公衆トイレはどのように整備しているのでしょうか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

第一次実行計画の素案の中で、清潔できれいなトイレづくりという計画事業がございます。これに基づいて、公園トイレと公衆トイレについて、清潔でバリアフリーに配慮した誰もが利用しやすいトイレに向けた整備を計画的に進めていきます。

この事業は、オリンピック・パラリンピック関連事業として位置づけられていますが、今回は割愛させていただいているところです。

**【鈴木部会長】**

当然、オリンピック・パラリンピックに向けて環境整備を進めていることと思いますが、今回ここでは具体的な事業のご提案、ご意見をいただきたいということだと思います。オリンピック・パラリンピックに向けて来る国内外の人たちに向けて新宿区のトイレの清潔さをアピールすることを考えていただきたいと思います。ただ、それをどのように発信するかがここでの議論になっていくと思いますので、そういった公的な場所、休憩スペース、トイレの場所、警察、交番の位置などの情報発信の仕方をいろいろと工夫していただければと考えます。

ほかにございませんか。

**【渡邊部会長】**

魅力ある観光情報の発信という事業について、ホームページのビュー数を上げるということを目指していますが、海外からのアクセス数と国内のアクセス数を分けた上で、むしろ海外からのアクセスをどのように増やすかというところの目標があってもよいのではないかと思います。

**【観光振興協会担当課長】**

ただいまご質問いただきました海外の方のアクセスを増やしていくということについて、観光という側面では非常に重要なことだと思っています。

ホームページだけではなく、海外の方に新宿区の魅力を知ってもらうためにプロモーション

動画をつくって、情報に触れてもらうための最初の動機づけみたいなものを積極的にやっていきたいということで、今回の計画の中にも書かせていただきましたが、海外へのプロモーションを行っています。

区の事業とは少し離れますが、観光振興協会というセクションについては官民一体の組織ですので、そちらのほうではホームページに海外の方に見ていただくための広告的なもの、例えばイベントがあるときに新宿区という情報に触れた方に見ていただけるような取組みも行ってるところです。

**【鈴木部会長】**

ほかにございませんか。

Wi-Fiや案内標識については、当然区のほうで整備することであろうと思います。あまりイベント的な事業をご審議いただくということではないかと思います。区のほうでしっかり取り組んでいただくということで確認をいただければいいという感じがします。

では、続いて、産業のほうに入りたいと思います。いかがでしょうか。

**【委員】**

先ほどの伝統文化理解教育の推進や和を伝えるプログラムに関連しての提案ですが、新宿区は地場産業として染色関係がかなり盛んで、染の小道などのイベントなども年々賑わってきており、外国人観光客がそこに参加することも多くなっています。オリンピック・パラリンピックの種目は全部合わせると55種目ありますし、オリンピック・パラリンピックのエンブレムなどもあるので、そういったイラスト、エンブレム、標識、手拭いなどの型をつくって、例えば小学校の中でそれを染めていく、あるいは外国人観光客が染めるという体験ができるような取組みも検討してみると面白いのではないかと思います。

また、日本の文化として、アニメやマンガが定着してきていると実感しています。新宿区内にアニメ関係の専門学校も多くありますし、中学高校でアニメやマンガを研究しているような部活、サークルもございます。例えば、オリンピック・パラリンピックの種目の歴史や、そこに参加する選手の方々の自叙伝をそういう方々がアニメとして書いて、地場産業としてつなげていき、印刷・製本といった地場産業にお願いして、フリーペーパーとして配布するなど、様々なネットワークができるような環境を整備してみてもどうかと思います。

**【鈴木部会長】**

ありがとうございます。

新宿区ならではの文化や産業がありますので、その辺とのネットワーク化というご意見かと思えます。

**【産業振興課長】**

今考えていますのは、染色、印刷、製本関連といった地場産業のところで何かを制作していただけないかということで、予算的には助成金を計上しているところです。これから地場産業のそれぞれの団体の方と話をしながら進めたいと考えています。

エンブレム等を染め物にということについては、エンブレムの使用方法については規制があ

り、利益につなげることはできないということです。ただし、昨年、組織委員会がつくった風呂敷型のスカーフは新宿区の方が染めたものとして都知事にも着用していただくなど、そういった気運も出てきていますので、何らかの工夫しながら規制の範囲内で取り組んでいきたいと思いをします。

また、アニメと云いますとやはり動画になりますので、例えば、フリーペーパーをつくった際に、印刷、製本の方々の利益、売上げが上がるかどうか、誰が印刷費を出すかということもございしますので、ご意見をいただきながら工夫をしていきたいと思いをします。

#### 【鈴木部会長】

ありがとうございました。

新宿区には、そういった産業資源、文化資源がたくさんあると私は常々感じています。先ほどの委員のご提案は、とにかく子どもたちにそれに参加させて体験させるといった形をとって、オリンピック・パラリンピック気運を醸成させていくことにつなげていくということだと思いをします。学校とのコラボレーションなどを何か考えてみるといいのではないかと思いをしました。

最後に、環境の分野に入りたいと思いをします。

こちらは、小型電子機器を回収して、そこに含まれる金属部分を再利用しようという事業です。何かご意見やご提案はございしますか。

#### 【委員】

要望になりますが、みんなのメダルプロジェクト事業の一環で、メダルの原料となる金銀銅がどのようにリサイクルされているかを見学できる清掃関連施設見学会が8月22日に開催されたかと思いをします。自分たちの携帯電話やゲーム機がメダルに生まれ変わるということを理解できたら、オリンピックやパラリンピックの見方が変わりますので、この見学会はとても良い企画だと思いをします。

8月22日に開催されても、区内の小学校は8月25日が始業式なので、自由研究にまとめる時間がありません。8月中旬頃までに開いていただいて、例えば、自由研究にもなるというようなキャッチコピーをつけていただくと、子どもたちが自らメダル制作について発信しますし、それをまたみんなで共有できますので、オリンピック・パラリンピックへの関心が高まると思いをします。もし可能でしたらその辺のご検討をよろしくお願いをします。

#### 【清掃事業担当副参事】

貴重なご意見大変ありがとうございました。

今のご意見は、来年度以降の事業に向けて、取り入れていきたいと思いをします。

同時に、私どもとしては、子どもだけでなく、大人の方も参加できるように取組みにしていきたいと考えています。携帯電話は、今日、お子さんも持っていらっしゃると思いますが、やはり大人の方が一番使われているものです。データが残っているためにどうしても処分に戸惑っている、写真等を大切にしておきたいからと保管されている、そういったものを掘り起こしていく必要があると思いをします。

今は年に1回の見学会となっておりますが、回数については夏休みの時期以外にも開催できる

ような工夫をしていきたいと考えていますので、ぜひ大人の方にもご参加していただけるような取組みにしていきたいと思います。

**【鈴木部会長】**

こういう事業を行っているということを何度も周知しながら、区民の方に理解を促していき、大人の方も含めて、あの金メダルはおれの携帯電話の一部だという感じで、少しでも大人の方にも満足していただけるような事業になっていけばいいと思います。

資源回収という意識としてはあっても、なかなか行動に移すのが難しく、データが残っているものを手放せないというところが解決できれば、推進が深まっていくのではないかと思います。ぜひ来年度に向けて検討をしていただければと思います。

**【委員】**

一つ伺いたいのですが、3年間の事業費が非常に多くなっています。これほどの事業費をかけて回収する効果があるのでしょうか。

**【清掃事業担当副参事】**

事業費についてですが、記載の事業費は、オリンピック・パラリンピックに直接関係ない部分も含んでいます。今まで我々が取り組んできた、古紙、ビン、缶、ペットボトルの回収といったものを含めた事業費ですので、その内、オリンピック・パラリンピックに関連する事業費は一部ということになります。

本年度の現在までの実績を申し上げます。今年度は15万円かかっています。それに対して、金銀を売り払いという形になりますが、私どもの収入ですが、現時点で250万円ですので、費用対効果で申し上げますと10倍から15倍程度の効果があります。もちろん、オリンピック・パラリンピックにおけるレガシーという意味でも、再資源化の拡大という道筋を広くつけるという効果がありますが、実際に費用対効果を考えれば、かなり効果のある事業ととらえています。

**【委員】**

そうしますと、資料の表記の仕方を工夫した方が、もっと分かりやすいと思います。

**【鈴木部会長】**

状況は分かりました。おっしゃるとおり、委員のご指摘のとおりかと思います。分かりやすく説明していただければと思います。

少し時間が超過してしまいましたが、全体を通してこれだけは言っておきたいということはありませんか。

**【委員】**

東京オリンピック・パラリンピックの会場計画についてですが、実際のオリンピック・パラリンピックの際には、出場国は事前に日本国内で合宿・キャンプを行います。開会式の2週間ほど前に選手村がオープンし、各国の選手たちが選手村に入ります。

ですが、日本のこの時期の暑さ対策ということで、ほとんどの競技団体が1か月ほど前から日本で合宿を行います。北欧のスウェーデンは、福岡県と福岡市で長期の事前キャンプを行います。来週私も行きますが、中国の選手団を誘致したいと長野が今名乗りを上げています。ほ

かにも、オランダが千葉に入ってきます。オリンピックは7月24日開幕ですが、4月くらいから新宿周辺にはものすごい数の海外の関係者が集まります。

昨年のリオ大会に私も競泳関係で入りましたが、私たちの立場では選手村には入れません。これは、各国、各種目でADカードの発給枚数が決まっていて、団体種目が出ると、そこだけでたくさん発給されてしまうのです。

競泳だけでも、選手村に入れなかったコーチ陣がほとんどということで、その方々はどこに泊まるかという、基本的には都内各所に泊まります。可能性として、新宿区も最終的には宿泊地として狙われることだと思います。想像していないことが出てくるということもありますので、自分の経験してきたことを皆様に情報としてお伝えしていきたいと思います。

#### 【鈴木部会長】

ありがとうございます。

貴重なご意見かと思えます。オリンピック開催年になれば、そういった厳しい状況が出てくる。もしかするとその前にもそういった状況が起こり得るということで、いろいろなイベントを行う際には、会場周辺に関係者が増えるということを念頭に置くことが必要だと思います。

それでは、次第2「ボランティアについて」に入りたいと思います。

東京大会では、9万人ほどのボランティアの動員をかけるということです。来年夏から募集開始という計画ですが、組織委員会や新宿区において、現時点でのボランティアの施策についての説明をしていただき、その上で全体の意見交換を行いたいと考えています。

組織委員会のボランティア戦略については事務局から、新宿区のボランティア制度については新宿未来創造財団の佐藤委員から説明をお願いしようと思います。

それでは、お願いします。

#### 【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

資料4-1「東京2020大会に向けたボランティア戦略」をご覧ください。こちらは、昨年12月に東京都と組織委員会が出している資料です。

1ページ目の5段落目ですが、「これらを実現するためには、都民・国民一人ひとりに大会成功の担い手になってもらうことが必要不可欠であり、その中でも『ボランティア』活動への参加は、大会に関わる多くの人と一丸となって大会を作り上げることで、他では決して得られない感動を体験する貴重な機会となる。」とあります。

7段落目には、2018年の夏ごろ募集開始と示されています。

2ページ目の中段の図をご覧ください。大会ボランティアは組織委員会が募集するボランティアで、主に会場内の誘導、スタッフの受付、競技の運営サポートを行います。

都市ボランティアは東京都が募集するボランティアで、大会期間中の空港主要駅・観光地等への旅行者に対する交通案内、競技会場の最寄り駅周辺における観光客の誘導案内を行います。

過去の大会における実績ですが、2012年のロンドン大会では、大会ボランティア24万人、都市ボランティア約2万4,000人の応募があり、そこから選定された約7万の大会ボランティア、約8,000人の都市ボランティアが活躍しました。大会終了後に、そのネットワークが引き継が

れて継承されたということも書いてございます。

それから、直近のリオ大会では、大会ボランティアが約5万人、シティホストについては約1,700人という状況でした。

4ページ目をご覧ください。東京2020大会におけるボランティアということで、大会ボランティアと都市ボランティアで約9万人以上の活躍を想定しているところです。大会ボランティアは組織委員会、都内における都市ボランティアは都が募集、研修、運営を行います。

6ページ目以降には、(2)には組織委員会が募集する大会ボランティアの活動内容が、(3)には東京都が募集する都市ボランティアの活動内容が紹介されています。

8ページ目の(3)には、地域との連携について説明されており、「一人ひとりが大会の担い手であることを実感できる方法についても、都内区市町村、町会・自治会、関係団体等と連携のもと検討する。」とされています。具体的な検討はまだ始まっていません。今後、この検討が組織委員会、東京都と検討されていくと思いますので、進捗があれば、またこの場でご報告させていただきたいと思っています。

9ページ目をご覧ください。多様な参加者の活躍促進について記載されています。「大会においては、年齢、性別、国籍、障害の有無等に関わらず様々な人々がいきいきとボランティアとして活躍するとともに、大会後もボランティア活動を継続できるような取組を検討していく。」とされています。

具体的には、「障がい者のボランティア参加」、「児童・生徒のボランティア参加」、「働く世代・子育て世代のボランティア参加」を検討していくということです。

特に、「児童・生徒のボランティア参加」については、児童・生徒だけで大会ボランティアや都市ボランティアには参加できませんので、親子で参加することによって、駅での道案内などを体験するような機会ができるような仕組みを検討するとされています。

10ページ目をご覧ください。応募条件ですが、まだそれほど具体的な内容になっていないものの、例えば、大会ボランティアについては18歳以上で10日以上活動できる方、都市ボランティアについては18歳以上で5日以上活動できる方などの方向性が示されています。

12ページ目をご覧ください。募集時期については先ほど申し上げましたが、平成30年の夏ごろに募集開始とされています。都市ボランティアの一部については、平成29年度末ごろに前倒しして募集を行うとされていて、これはラグビーのワールドカップがございまして、こちらで活動した経験を大会につなげていくということが想定されています。

また、選考の結果、ボランティアに応募したもののボランティアの活動の機会を得ることができなかった方に対しては、国や関係団体と連携し、広く大会成功を支えていただけるように様々な情報の提供を検討していくということで、別の活躍の機会が与えられるような仕組みを検討するという事です。

15ページ目をご覧ください。やはり情報発信が大切になるということで、ボランティアについてはウェブサイトが開設されています。東京都のホームページと組織委員会のホームページにおいて情報発信されています。

17ページをご覧ください。「裾野拡大に向けた取組」ということで、「外国人おもてなし語学ボランティア」という事業がございます。こちらは後でまたご説明させていただきます。

19ページ目をご覧ください。「大会後のレガシー」ということで、大会後もボランティア活動への参加気運の維持、継続のための取組み、それから、大会後に向けた取組について記載されています。

続いて、資料4-2「『外国人おもてなし語学ボランティア』育成講座受講者募集」をご覧ください。こちらは、先ほどご紹介させていただきましたが、外国人おもてなし語学ボランティアのパンフレットです。こちらは東京都が主催で、10月から12月開催分のチラシです。この外国人おもてなし語学ボランティアですが、表紙の中下段に記載がございますが、「街中で困っている外国人を見かけた際などに簡単な外国語で積極的に声をかけ、道案内等の手助けをしていただくというボランティア」とあります。日常生活の中で取り組んでもらうようなボランティアであり、これに登録したからといって東京2020大会の都市のボランティアになれるというものではありません。

内容としてはセットコースとおもてなしコースの2種類ございます。

セットコースは語学講座つきです。まず、語学講座で語学の力をつけて、それから道案内など外国人とのコミュニケーションを学ぶおもてなし講座を受講するものです。

おもてなしコースは、語学がある程度できる方を対象としたもので、おもてなし講座単体のコースになっています。

講座を受講する方法ですが、一部の区市町村等においても外国人おもてなし語学ボランティア育成講座を開催しているということで、新宿区でも新宿未来創造財団が実施しています。今年度は、9月にセットコース、2月におもてなしコースを実施するという計画です。9月分は既に募集を締め切っていますが、2月分についてはこれから募集します。

私からの説明は以上です。

#### 【委員】

続いて、新宿区のボランティアの制度についてご説明させていただきます。

資料5「生涯学習・地域人材交流ネットワークの活用」をご用意ください。

ボランティア制度については、社会福祉協議会をなくしては語れないところであり、社会福祉協議会では高齢者、障害者、福祉関連などのボランティアについて担っているところです。企業の地域貢献のための個別の事業である地域みまもり協力などを行っています。

このほか6地域センターでボランティアのサポートコーナーを設けていたり、さらには区民の共同活動という視点で広く見ていけば、地域コミュニティ課で所管している新宿区キラミラネットなど、様々な分野にボランティアを支援しています。

その中で、今回、新宿未来創造財団では、オリンピック・パラリンピック大会を契機としたボランティア制度についてスポーツを主として担当していますので、その制度をご説明させていただきます。

まず、事業の概要として、当財団は、生涯学習や文化芸術、スポーツの振興、国際理解の促

進、青少年育成などをテーマにして数多くの事業を展開しています。財団がこれまで培った地域、関係団体との絆を活かした制度運用を行っていくということで、平成25年8月よりインターネットでも一元的に紹介・検索できるようにしています。

主な事業内容は三つございます。

まず、人材の登録及び紹介です。ボランティアになりたい方は情報を登録します。また、ボランティアを使いたいという方へ登録者を紹介しています。

次に、システムの運用として、インターネットシステムで運用しています。

三つ目に、人材交流の促進及び登録者の育成ということで、制度の周知を図っていくとともに、人材交流を促進しています。また、登録者を対象として、指導力の向上につながる講座等を企画して登録者のレベルアップを図っています。

平成28年度の実績ですが、登録者は個人・団体合わせて541人です。活動している日数ですが、4,940日です。延べ参加者数等は記載のとおりです。

今後の課題ですが、制度の周知というところが一番になるかと思います。「新宿地域人材ネット」訪問者の拡大及び登録の促進ということがあります。その次に、登録者の活用機会の拡大が挙げられます。

500人全員が常に活動できる機会があるかといったら十分ではなく、登録しただけの方がいるというのが実状です。活動の機会を拡大しなければいけないということが大きな課題になっています。

また、登録者の養成、指導力の向上といったスキルアップが大切だと思っています。

シティハーフマラソンで実際にあったこととしまして、リーダーの人が自分の考え方にこだわってしまうような、意識が高すぎるといったケースもあったり、また逆に応援に来ただけの方もいて、ボランティアの方の中でも意識の差が大きくなっていることが課題です。

また、財団の中でも、アーティストバンクや博物館ボランティアなど、財団の中でもボランティアが縦割りになっている現状がございます。

そういうところでは財団、外郭団体、民間全体が一体になってできるような形でいかなければいけないと考えています。

説明は以上です。

#### 【鈴木部会長】

ボランティアに関しましては組織委員会、東京都ともに、まだまだ具体的な中身はこれからという感じがします。区のほうは、オリンピック・パラリンピックに向けてというよりは、区のボランティアをこの機会を通じて醸成していきたい、発展させていきたいということだと思います。

全体を通して、何かご意見はございますか。

#### 【委員】

ボランティアについては、社会福祉協議会では、これから人材発掘や養成が課題になっていますが、福祉関係のボランティアとしては、活動団体数は153団体ということで、団体の方に

も受け入れていただいているところです。

ただ、現在の社会福祉協議会の仕組みとしては、やはり新宿未来創造財団が、語学ボランティアやスポーツボランティアを中心にまとめていただいたり、支援していただいていますので、今のところは役割分担をしているということです。

その中で、社会福祉協議会は地域とのつながりが多く、七夕の季節に、外国からの留学生を対象に地域の方が浴衣の着付けをなさって、それを盆踊り大会につなげるなど、開催時期を踏まえても、何か応援ができるのではないかとということで、社会福祉協議会としてもこの協議会等でのご意見を踏まえながらできる活動を進めていけたらと思っています。

ボランティアについては、また今後何回か会議の中でご発言をさせていただきたいと思いません。

#### 【委員】

組織委員会のボランティアや東京都のボランティア、新宿区の独自のボランティア、それぞれに募集することになるのでしょうか。もし募集するとしたら、どういう役割分担で、東京都のボランティアと新宿区のボランティアが役割を果たしていくかを知りたいのですが。

#### 【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

組織委員会と東京都のボランティア募集の方向性については、今ご案内したとおりです。新宿区として独自のボランティアを募集するかどうかは、今後検討していきます。

仮に募集することとした場合、大会ボランティアや都市ボランティアとの役割分担を組織委員会や東京都と調整していく必要がございます。今後、区民協議会でその進捗をご報告をさせていただき、それをどのように活用していくか、どうPRしていくといいか等について、ご意見をいただければと考えています。

#### 【鈴木部会長】

よろしいでしょうか。

ボランティアに関しましては、どこの団体も、組織委員会の動きが決まらないので、動けないというジレンマを抱えていることと思います。具体化に向けてようやく動き出す際には、またいろいろなご意見をいただければと思います。

では、これもちまして、第1回目の合同部会を終わりたいと思います。

貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。

これで閉会します。

<閉会>